
龍の飛び方

raizu

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

龍の飛び方

【Nコード】

N1824C

【作者名】

raizu

【あらすじ】

龍として生きていくそんな人間の物語

自己認識

「だだの不注意だ」そういわれるような理由で俺は死んだ。

たいして車通らない交差点に差し掛かった時だった。

その日は、天気もよく、洗濯をするなら色落ちを気にしなければならぬような真夏だった。だからだろうか俺は、がらにもなく空を見上げながら歩いて交差点をわたろうとしたのは。

気づいたら俺の脚は地面を離れていた。そしてそれはとても長く感じた、体にわたる衝撃、視界が定まらず自分が地面へと落ちていったと分かるまでの時間は。

まるで他人事のように、ああ車にはねられたのかと思いその時見た空を飛ぶ鳥をみて、次生まれ変わるなら空を飛びたい俺はそう思いながら死んでいった。

ー風が頬をなでる

生きている？たしかに俺は死んだはずなのに。

目を開けてみるとそこは森の中だった。川のせせらぎが聞こえそして壮大な森にかこまれている。

でもそれは有り得なかった。交通事故にあったのだから生きているとすれば病院の中で目覚めるだろう、まちがってもこのような森の中で目覚めはしない。そうこれはいかに頭の弱い子であろうが天才だろうが普通に行き着く答えだ。

ならこれは死ぬ前に見ている夢なのだろう、なんとか生きたいと思いい臓が止まっても脳だけで見せている夢なのだろう。だとしたらなんとも微妙な夢だ、死ぬ前なのだから欲望すべてを満たすようなものを見ればいいのに、自分の事ながらなんとも言えない。しかし俺はポジティブであろうというも決めていたのだ。うん、自分で

もなかなかいい感じのポリシーだ。

そういうわけでとにかく動いて散策だ！

うにゅ

ん、何か変な感じが・・・まあいいかととりあえず立ち上がろう。

うによ、うにゅよ

：思い切り自分の体から感じてる。えーと、とりあえず自分の体を見てみようか。

：うん、へびだね。このうにょによしてる体はまごうことなきへびの体。ははは、さあ寝ようきつと起きたら両親が涙で迎えてくれるよ。いいねえきつと感動するよ。そして、これはただの笑い話にして入院中に見舞いに来てくれた友人たちに言おう。ああ、自分でもなかなかナイスな考えだ。さあ寝よう……
って寝れないというか眠くない。いや、そんな軟弱な考えは許されない。つーか許したくない。さあ寝ろ俺よ寝ろ！

ー1時間23分経過

ああ認めようこれは夢でなく現実であることをそして今の俺はへびであると。

そう、たとえへびだろうがなんだろうが

さあそうと決まればさっさと移動だ！

ふわっ

……ん？なんか浮いてるような：ああしかし今の俺にはへびが飛んでも驚かない、自分がへびって時点でメーター振り切っちゃてるしな。うん、とりあえずこの現象は無視しよう。というわけでのどが渴いたし川レッツゴー。

ふよん、ふよん、ふよん

なかなか空を飛ぶっていい感じだ。飛べないへびは、ただのへびって言葉がよく似合いそうな気がする、何か違うかもしれないけど。ちよっとした喜びを感じながら飛行を楽しんでいると川へは結構簡

単に着いた。

そして川から水を飲もうと水面を見た瞬間俺は凍りついた。
そこには龍がいた。

初期邂逅

そうだ龍つまりフランス語でいうと「dragon」そうたとえば英語だろうがフランス語だろうが「ドラゴン」という字は変わらない：どれだけあがこうともな。

『しかしそこから得る物だってあるんじゃないだろうか。』

そういった男がいた。俺は馬鹿だと思った。でも、あいつはどれだけ馬鹿にされようとどれだけ自分の無力を思い知らされようとも立ち上がり続けた。

『どうしてだっ、どうしておまえはそこまでして歯向かうとするんだ！？おとなしく生きていれば何事もなく過ごしていけるというのに！！』

俺は一度彼にそう言ったことがある。だけどあいつは…

『それでも俺は今幸せなんだよ。』

その一言だけいってあいつは、走っていった。だけど俺にはまったく分からなかった。あいつのいう幸せの意味もあいつの顔にあった笑顔の意味も…

だけど俺に一つだけ言えることがある。

それは、彼は今も戦い続けているということだ…

ー現実逃避終了ー

ああ、どれだけの時間わけの分からん思索の海に沈んでいたんだろうか。そんな簡単なことも分からないほど俺の頭は混乱していた。というかなぜ龍なんだ!? 『飛んだ時点で気づけよ』という突込みが入りそうだが、そんなの知るかと返したい。たしかにへびは空を飛ばんさ! だが現実的に考えて龍なんているはずがないだろうが! ！というかこの考えも今の状況を考えれば突っ込みを入れれそうなんだがめんどいのでPASS!

だが、今考えるべきことはただ一つ! 水を飲むことDA!

ここに来た目的は自分が龍であることを確認するためでも、その姿が中国的龍であること発見することでも、結構見てたらかわいいというかカッコイイとかそんなのを考えるためでもない! 水を飲むためだ。だからそれ以外を考えるな!

ガボツ ガボツ ガボボボボ

俺は勢いよく、そういうなれば炭酸飲んだことがない子供がラッパのみしようにして一気にのどに入り込んで来て驚いて飲むことをとめることができなくなったような勢いで飲んでいく。

ふうマジ飲みすぎで気持ち悪い。だけど落ち着いた。今俺は龍になっているということ正面から見れるぐらいには。この場合俺が考えることは、なぜ龍になったかではなく。これからどうしていくかだろうと思う。

しかし、考えてみると今の状況ってそこまで悪くはないんじゃないのか? へびなら自然界の掟にしたがっていつ死ぬか分からないような生き方をしなければならなかっただろうけど、いま俺は龍になっている。つまりもしや俺って最強なんじゃないのかそんな思いがよぎる。

そうかつまりこれから俺のサクセスストーリーが始まるということか。

ガサガサ

いやーやっぱ俺って運がいいのかな

ガササササ カシユツ

そうだよな。やっぱ日頃の行いがよかった。ってあれなんか意識が…とぎれ…て…

「はじめましてそしてよろしく、私のパートナー」そんな言葉が不意に聞こえた…

ドサツ

そうして俺は意識を失った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1824c/>

龍の飛び方

2010年11月3日14時05分発行